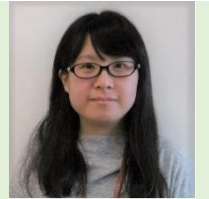


## ▼フレンズコーナー

## 重要文化財「通潤橋」と地域のつながり

熊本県上益城郡山都町/教育委員会/生涯学習課

大津山 恭子



国指定重要文化財「通潤橋」は、平成 28 年熊本地震、平成 30 年大雨と相次ぐ二度の災害により被災しましたが、昨年、保存修理工事が完了し復興を成し遂げました。修理工事では熟練の石工職人らの技により見事に復旧されましたが、これまで通潤橋が長年にわたり保護されてきた背景には地域とのつながりが欠かせません。ここでは、管理や活用に関わる地域の方々取り組みなどを紹介します。

## 1. 重要文化財「通潤橋」の概要

通潤橋は、九州のほぼ中央の熊本県上益城郡山都町に所在する日本最大級の石造アーチ水路橋で、昭和 35 年（1960）に国の重要文化財に指定されています。構造は、20mを超える高石垣を備えた単一アーチ橋で、上部に溶結凝灰岩製の通水管 3 列が並べられています。通水管は、「吹上樋（ふきあげとい）」と呼ばれるサイホンの構造で用水を送り、継ぎ目には目地漆喰が用いられています。現在代名詞になっている著名な「放水」は、元は管内に堆積した土砂等の排出を目的に設けられた機能です。

そもそも通潤橋は、通潤用水という農業用水の施設として白糸台地のかんがいと新田の開発のため、嘉永 7 年（1854）に建造されました。事業の責任者であった布田保之助は、地域住民から敬われ、布田神社に祀られています。

白糸台地では、こうして築かれた水路や棚田を基盤にした営農を始めとする地域の営みが継続されており、平成 20 年（2008）から 22 年（2010）にかけて、国の重要文化的景観に選定されました。

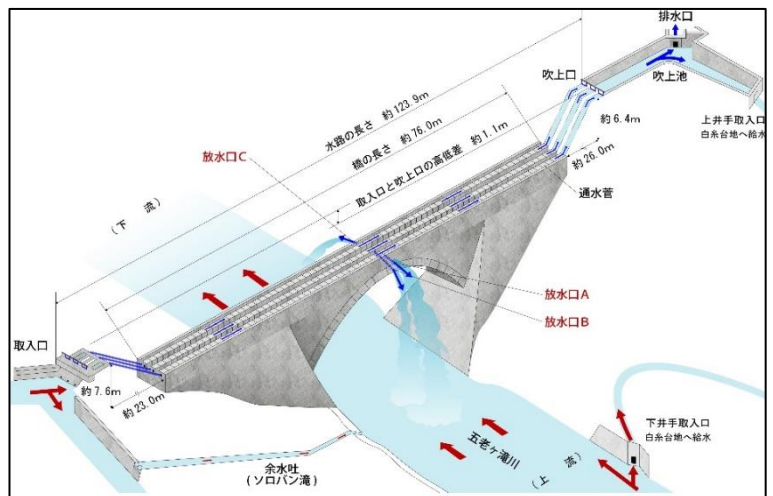


図1 通潤橋の構造

## 2. 通潤橋の保存・維持管理

## (1) 農業施設としての管理 ～通潤橋の目地漆喰の詰替え～

通潤橋・通潤用水は、約 170 年に亘り受益者の通潤地区土地改良区により管理運営されてきました。通潤橋の維持管理として代表的なものは、漏水箇所の目地漆喰の詰替えです。漆喰は、石管を傷つけずに取り外しや詰替えが可能であるため、建造以来、目地の材料として採用されてきました。漆喰は、「通潤橋仕法書」の記述をもとに、土、砂、消石灰、塩、松葉汁（松葉を炊いた煮汁）をつきあわせ、一旦 2 日 2 晩寝かせた後、再度つきあわせて作製します。完成した漆喰は、一握り分ずつ通水管目地に入れ、約 70 回つき棒で突き固めて充填を行います。丁寧に突き固めを行わなければ漏水につながるため、根気が必要な作業です。漆喰の詰替えは、農閑期の厳冬期に行われます。受益地区から経験者を中心に数人ずつが集まり、1 週間程度をかけて漏水確認・漆喰製作・詰替え等一連の作業を行います。白糸台地では、布田保之助への敬意の念や用水の利用に



写真1 漆喰詰替え（令和元年保存修理工事時）

基づく強固な地域の繋がりによって、これら伝統的な夫役が継続されてきました。なお、写真1は平成28年～令和2月まで実施した保存修理工事時の漆喰詰替えの様子で、ここでも土地改良区の方々に参画いただきました。

## (2) 石垣の除草作業

石垣の除草作業には、熊本県山岳・スポーツライミング連盟と陸上自衛隊の方々にボランティアでご協力をいただいています。平成24年度以来、毎年8月末に実施します。令和2年度には熊本地震後からの修理工事を経て、5年ぶりにも関わらず、県内各地から20名以上の参加をいただきました。定期的な除草により、石垣の適切な保存と多くの観光客に通潤橋の石積み技術の粋を見学してもらうことが可能となっています。



写真2 通水石管断面の通水穴と漆喰目地 (令和元年保存修理工事時)

## 3. 通潤橋の活用

### (1) 教育

通潤橋は小学校の社会科の教科書にも取り上げられているため、毎年県内の小学4年生約9000名～10000名が見学に来訪します。町では、社会教育の一環として郷土史を学んだ講座生の中から20名程度の方が案内ボランティアを実施する取り組みも行われています。この現地案内では、通潤橋のみではなく、通潤用水取水口やそのすぐ下流に設置されている円形分水(耕作面樹に依りて公平に用水を分配する利水施設で、昭和31年(1956)に完成。)、白糸台地の棚田なども見学するコースを設けています。



写真3 除草作業の様子 (令和2年8月)

### (2) よりよい放水の運用に向けた協力体制

通潤橋の放水は、町の観光の目玉の一つになっています。放水の在り方については、平成25年度(2013)から26年度(2014)にかけて重要文化財通潤橋保存活用計画の策定を契機として検討を行いました。通潤橋は、現役の農業施設としての機能を有し、放水に使用する水も農地を潤す貴重な水資源であることから農業を生業とし水路管理を担う土地改良区はもちろん、商工会・観光協会等の観光分野とも関わりを有しています。そのため、専門家をはじめこれら地元の各関係者をメンバーとして委員会や保存・活用の各部会を結成しています。重要文化財である通潤橋の保存を前提とすることは言うまでもありませんが、放水は水路橋であるが故に設けられた特有の機能であり特徴を端的に表す有効なものでもあることから、計画的で管理された放水の実現を目的に、平成27年(2015)に従来の予約放水を撤廃し「計画放水」への切り替えを行いました。現在は、農業・観光双方の関係者との協議の上、年間の放水スケジュールを定め「通潤橋放水暦(放水カレンダー)」を公表し運用しています。

## 4. さいごに

平成28年4月の熊本地震、その約2ヶ月後に山都町を襲った集中豪雨では、通潤用水や白糸台地の棚田に甚大な被害を生じました。公的な支援を受けることが難しい小規模な被災農地等の復旧等のため、白糸台地の住民の方々により「山都町棚田復興プロジェクト」が結成され、地域外のボランティアの力を活かす活動が始められました。現在は、通潤橋の上・下流の水路の草切りや泥上げといった管理作業にもボランティアと地域の農家の方々と協働で作業が行われるようになってきています。令和2年3月には、通潤橋の漆喰詰めに関するワークショップも開催し、土地改良区の経験者からボランティアの方へ漆喰の詰め方等をレクチャーしていただきました。文化財は、こうした保存や活用をしていただく”地域や人々”があってこそ、適切に次世代に継承されていくものと考えています。

【参考】・通潤橋 web サイト URL : <https://tsujunbridge.jp> (通潤橋放水カレンダーも掲載)

・山都町役場ホームページ URL : <https://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/index.html>